



イラスト=上坂じゅりこ

## “ハンパない緊張感”を 体感せよ！



試合に挑み、  
人生を戦う。

ハラハラする場面があると、無意識に歯を食いしばりながら見てしまう。エンドロールが終わって立ち上がるとき、歯とあごが緊張から解放され、初めてそのことに気が付く。今回紹介したい「TATAMI」は「歯食いしばる系」の作品です！

イスラエル出身のガイ・ナッテイヴとイラン出身でフランス在住のザーラ・アミールが共同で監督しており、アミール監督は主人公のコーチ役として出演もしている。

実話に基づいており、撮影は極秘で行われた。作品の完成後、イラン出身の関係者は亡命している。

世界柔道選手権でイラン代表として優勝を目指すレイラ・ホセイニ。優勝候補の選手にも勝ち、このまま金メダルへ一直線、という矢先にガンバリコーチの携帯に一本の電話が入る。それは敵対関係にあるイスラエルの選手との対戦を避けるために、レイラを棄権させるという内容だった。その命令を一蹴したレイラは、家族を人質にとられてしまう。政府に服従するか、それとも自由と尊厳のために戦うのか、という話。

これまで優勝を目指し、日々とにも練習をしてきた味方であるコーチから棄権するよう伝えられるシーンは凄まじい。その後も何度もコーチは棄権を勧めるが、レイラは戦い続ける。初めは柔道の熱い試合だったものが、圧力をかけられてからは対戦相手以外の何かもと戦っているように私たちの目に映る。勝ち進めていくたびにどう説得しようとするコーチの脳内を表すように、アップのために広がる空室をグルグルと走るレイラ。両者とも緊張感がこちらにも伝わる。



続けるレイラの後ろ姿から、スポーツだって一人の人間が何をしてもどう生きるかを選んだ先にあるものだと思った。自分の人生で何をして過ごすか、そういった当たり前の時間を制限されていたということだ。ましてや国が人から奪っていいものなどない。

また試合中のシーンも圧巻だ。映画だからこそ撮れる角度と遠近で撮影されており、選手たちの呻き声まで聞こえる。技をかけられてうずくまるレイラを畳が透過したように撮るアングルは、柔道を取り扱う作品ならではの、色々な意味で緊迫感のある「TATAMI」、是非スクリーンでご覧ください！

文・ミムラ

### ◆川越スカラ座

明治38年に寄席としてスタートした川越老舗の映画館。平成19年に惜しまれながら閉館したが、その後NPO法人ブレイグラウンドの尽力により復活。コアな作品を懐かしい雰囲気の中で堪能できる。

川越市元町1-1-1

049-223-0733 火曜休館

【料金】一般/1,700円 シニア/1,300円

大学生、障がい者の方（および付添1名まで）

/1,000円 25歳以下の方/1,000円 高校生/500円（3月末まで） 幼児/無料

※詳細はHP参照。http://k-scalaza.com/